

大阪市民連合アンケート回答(れいわ新選組・かばた健吾)

1. 南海トラフ大地震と「夢洲」での「万博」・「IR・カジノ」の安全性について

夢洲の安全性については、ご指摘の通り人工島特有の地盤のリスクがあり、南海トラフ地震等の災害を想定した対策が必要と考えます。さらに、仮に浸水被害から守られたとしても、対岸の此花区や港区の地域はゼロメートル地帯であり、道路や地下鉄の遮断し、多数の人が夢洲に取り残されることが想定されます。

2. 大阪スマートシティ計画について

大阪スマートシティ戦略では、地域 DX、都市 DX、行政 DX を柱に、住民の利便性向上や社会課題解決を目指すとしていますが、具体的な実践フィールドとして、「大阪スーパーシティ計画」(うめきた、夢洲での特区指定)が位置付けられ、「未来社会の実験場」としての役割を果たしています。

万博では、生体情報など個人情報を経営化することが実際に行われており、このような経営化には反対です(れいわ新選組は国会でも追及してきました。)

3. 大阪・関西万博について

大阪・関西万博は、大阪市民 1 人あたり5万円以上の莫大な公費を投入し、一握りの資本だけが儲かるイベントとなっています。華やかに見せて、メタンガス爆発や、レジオネラ菌への対応でも、安全性をおろそかにし、パビリオン工事業者への未払いなど事業者・労働者をおろそかにする虚像です。IR カジノのために、万博で夢洲のインフラを整備する邪道な目的の万博はいりません。だから、万博の開幕日に夢洲現地でデモも行いました。万博は中止し、人びとの安全と経済底上げに公費を使うべきです。

4. IR カジノ誘致について

カジノ誘致に反対し、住民投票を求める署名運動にも参加してきました。カジノ業者に格安の賃料で優遇し、大阪市民からお金を巻き上げて外資に吸い上げるカジノはやらせたらダメです。認可取り消しを政府に求めていきます。

5. 国際港湾物流拠点・「夢洲」の重要性について

夢洲は維新が言い出したような「負の遺産」ではなく、大阪市民の重要な廃棄物の最終処分場であり、物流拠点として活用されてきました。IRカジノは中止し、物流拠点として発展させていくべきと考えます。

6. 「国際観光都市・大阪」構想について

外国からの観光客は歓迎ですが、国民が貧しくなり旅行に行けず、外国人環境客に頼るような現在のインバウンド促進策には反対。インバウンド向けの民泊も大阪市・大阪府は管理すらできていない。消費税の廃止や給付、社会保険料を下げるなどにより手取りを増やし、内需を強くして経済底上げを行いたい。